

1-(3) 加工業務用野菜産地としての地位確立

— 大規模栽培経営体の育成と組織活動支援に向けた取組 —

1 活動のねらい

肥沃な火山灰土から成る君津地区の台地では、従来からのダイコンなどの根菜類やパレイショ、サトイモ等のいも類を中心とした市場出荷向け栽培に代わり、ダイコンやキャベツを加工業務用向けに栽培する生産者が増えてきた。効率的な機械を活用して生産する大規模経営体や、生産者の研究会組織である「JAきみつ畑作研究会」に対して、栽培や組織活動を支援した。

2 課題の背景

年々増加している若い後継者や、他県から参入した生産者は、その多くがJAきみつ畑作研究会に所属して、大規模経営にあった栽培体系や土づくり、雇用管理や農地利用について研究している。それぞれの課題に対して普及が支援することで、なお一層の経営体及び産地の発展が見込める。

3 普及活動の経過

(1) ダイコン・キャベツの安定生産に向けて

平成30年度の活動の中で、栽培講習会を両品目で各1回行い、栽培の留意点や主要病害虫に関する情報を提供した。とくに、コナガについては、管内現地に発生予察トラップを設置し、毎週捕獲数を調査して薬剤散布を含む栽培管理の注意点を随時提供した。また、連作障害を回避するために殺センチュウ剤実証ほを2か所、キャベツ根こぶ病を予防するおとり大根実証ほを1か所設置し、実証結果を会議にて報告した。

(2) 個別経営体の強化

JAきみつ畑作研究会の視察研究会の視察地として、茨城県内で省力化機械を導入し大規模経営に取り組む経営体を選定し、研究を誘導した。また、管内でだいこん引き抜き機の実証を行った。

(3) キャベツ品種審査会の協力誘導

千葉県野菜品種審査会(キャベツの部)に、JAきみつ畑作研究会が栽培管理等で協力するよう誘導した。18の試験品種を栽培し、適正な栽培管理を行って、審査会にふさわしいキャベツを提供した。



写真1 先進地視察での研究(除草機)



写真2 ダイコン引き抜き機実演会



写真3及び4 キャベツ品種審査会の協力(左 収穫作業 右 審査風景)

4 普及活動の成果

(1) 生産者の栽培面積拡大

表1 JAきみつ全体の品目別栽培面積

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ダイコン栽培面積 (ha)	64	65	65	65
キャベツ栽培面積 (ha)	32	36	58	60

当事務所調べ

ダイコンについては、価格の変動が激しく栽培面積の大幅な増加はなかったが、JAきみつ畑作研究会員の5ha以上の栽培経営体は4戸あり、雇用を導入して大規模な経営を行っている。キャベツについては、だいこんから一部切り替える生産者もあり、産地は年々拡大している。

(2) 省力化機械導入経営体の増加

JAきみつ畑作研究会員では、ダイコンの収穫機(3戸)、縦型洗浄機(5戸)、キャベツ苗定植機(3戸)、防除機(3戸)など、省力化機械の導入が進み、規模拡大しても無理のない栽培体系を組んでいる。

(3) 研究会組織の活動強化

JAきみつ畑作研究会は、品種検討や薬剤試験など、生産者が自発的に活動を行い、成果を経営に生かしている。今年度の試験における殺センチュウ剤実証ほどは、対照区に比べセンチュウ害がほとんど見られない、白いダイコンを生産できた。

5 今後の発展方向と課題

JAきみつ畑作研究会員以外の生産者では高齢化も進み、後継者もさほど多くない。恵まれた土地条件を生かすためには、農地を集約し雇用を導入した大規模栽培経営体を増やす必要がある。そのためにも、農地中間管理事業の円滑な活用や、省力化機械の一層の導入、連作障害対策の平準化が求められる。

6 担当者

北部グループ：宮木 清、田中 奈穂子、羽深 真里、清水 ゆかり、片山 敬生

7 協力機関

君津市農業協同組合、袖ヶ浦市、農林水産部担い手支援課、生産振興課